



ご挨拶



PTA会長 鈴木 寛子

会員の皆さまには日頃よりPTA活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。本年度、PTA会長を務めさせていただき鈴木寛子と申します。

今の時代は変化の激しい予測困難な時代であると言われており、このような社会を生き抜く力を醸成するためには、自己の目標を掲げて、失敗を恐れず、様々なことにチャレンジをしていくことが大切であると思います。

す。

令和七年四月に、三重県子ども条例の全部が改正され、その前文において、「全ての子どもが、安全で安心して過ごすことができる多くの居場所を持ち、様々な遊びや体験をしながらのびのびと育ち、人との関わりの中で多様な価値観に出会うことで、自分も他の人も大切な存在であることを実感し、将来に夢や希望を持つて暮らせる社会にしなければならぬ。」と述べられています。また、子どもの定義としては、一八歳に達した後も引き続き施策の対象とする必要がある旨が追加されています。

PTAは「子どもたちの健全な成長を図るため、保護者と教員がお互いに学びあう高めて合っていく」社会教育関係団体

であるとともに、子ども・子育て支援団体という位置付けを担っています。この松阪高校という土壌で、子どもたちが自らの夢を思い描き、明日への希望を胸に抱き、価値観の違いや多様性を認め合い他者と共に支え合って生きていく力、環境の変化に対応する柔軟性や適応力、既存のやり方にとらわれずに新たな価値を創造する力や課題解決力を育み、それぞれの未来へと歩んでいくことができるよう、最大の応援団として子どもたちの成長に一番近くで寄り添うことができる一年になればと考えております。

また、持続可能な社会の実現に向けては、先を見据えたPTA活動のあり方を模索していくことも必要であると思います。今年度の活動も、PTAの「不易」と「流行」を大切にしながら、皆さまと協働し、子どもたちを中心に据えた活動に真摯に取り組んでまいりたいと考えております。

引き続き、ご支援とご協力をいただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ご挨拶



校長 井ノ口 誠充

保護者の皆様には、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素から本校の教育活動に温かいご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、六月六日の体育祭では、生徒は「知性と身体をフルに活用しながら、担任とクラスがさらなる同調を図り、活気ある松阪高校を作る」を目標に、存分に楽しんでいました。特に三年生は、各クラスのパフォーマンスをはじめ一日を通して、自ら楽しむという気持ちが溢れていたように思います。一、二年生はいい刺激を受けたことでしょう。教員も楽しみました。三年生との綱引き対戦では、体力の限界を感じつつも、清々しい気持ちになりました。このような体育祭が開催できて、大変嬉しく思います。

本校の体育祭は毎年、学校のグラウンドで開催しています。しかし、雨や暑さ対策として、アリーナ等の屋内施設で体育祭を開催している学校もあります。ここ何年か常態として真夏日や猛暑日が多くなっており、夏季の暑さ対策は喫緊の課題です。

県教育委員会は、児童生徒の熱中症事故の防止策として活動場所の暑さ指数(WBG)が31以上の場合は「運動を中止する」としています。そのようななか、全ての県立高等学校の武道場に空調設備を設置され、加えて本年度中に、本校を含む県立高校三校で、体育館に空調設備が設置される予定です。授業及び部活動等において熱中症事故を未然に防ぐなど、安全・安心な学校となるよう整備を進めていきたいと思っています。また、ご家庭におかれましても、お子様の体調が悪いときや日頃の体調と比べて少しでも違和感がある場合には、自ら活動を控えたり、自ら申し出たりするようご指導いただければ幸いです。

本校で学ぶ生徒が、それぞれの可能性を伸ばし、逞しく生き抜き、リーダーとして成長でき

るよう、教職員一同全力で取り組んでまいります。保護者の皆様には、本校の教育振興のため、変わらぬお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

東海地区 高等学校PTA連合会 「静岡大会」

六月二七日に静岡市清水文化会館マリナート大ホールで開催された東海地区高等学校PTA連合会「静岡大会」に参加しました。本大会は、東海地区の

高等学校の充実発展に努め、東海地区の高等学校教育並びに社会教育・家庭教育の振興を図ることを目的とした大会になります。当日は晴天のもと夏富士を望みながら、東海四県から保護者と教職員が一堂に会し、研鑽に努める貴重な機会となりました。

今年度も、開会式のあとにまず研究協議が行われました。

最初に、静岡県立浜松特別支援学校PTAより「サステナブルなPTA活動を目指して」負担を減らす仕組みづくり『できることを、できるタイミングで』

〜』というタイトルで研究発表が行われました。浜松特別支援学校PTAでは、コロナ禍を経てPTA活動のあり方について検討を重ね、「できることを、できるタイミングで」を合言葉に、保護者が活動内容と時期を自由に選ぶことができる「応援隊活動」の開始や、SNSとITツールを活用した情報提供と活動内容の「見える化」に注力し、持続可能なPTA活動を進めているとのことでした。

次に、学校法人松翠学園岐阜女子高等学校育友会より「本校の育友会活動」というタイトルで研究発表が行われました。松翠学園岐阜女子高等学校育友会は、総会への参加者減少、育友



東海地区高等学校PTA連合会「静岡大会」

会活動の保護者への周知不徹底、活動内容における共通理解の不足という現状の課題に対して、保護者がより多く生徒と関わることをできる機会を増やすことが大切であるという視点に立ち、文化祭での出店や行事での飲料水の提供などを通して、生徒への理解を深める時間の充実を図っているとのことでした。

今年度の発表校の子どもたちを中心に据えて、時代に寄り添ったPTA活動を模索している姿から、PTAの「不易と流行」について教わったような気がします。

研究協議のあとは、金沢大学融合研究域融合科学科教授である金間大介さんより「素直でまじめで優秀、でも主体性がない〜そんな『いい子症候群の若者たち』と共に前へ進むために〜』という演題で講演をいただきました。ここでいう若者とは、十六才から三十四才を指すそうです。タイトルにあるような現代の若者について、実際に学生と日々触れ合っている先生の経験から、彼らが抱えている様々な思いについて知ることが出来る機会となりました。

「主体性がないのは若者だけ？」という問いかけにはハッとさせられるものがありました。私たち大人も、予測困難な今の社会を生き抜いていく上で、未来の担い手である若者たちと共通理解を深めながら、自らも課題意識をもち、共に歩んでいくことの大切さを教わる貴重な時間となりました。

「一人ひとりの進路実現」

三年生 平 浩幸

六月六日に三年生での大きなイベントの一つである体育祭が開催されました。多くの保護者の皆様が学校で直接観覧していただき、お子様の頑張る姿を見ていただいたことには感謝しております。

松阪高校では体育祭の午後三年生が各クラス独自のパフォーマンスを披露するのが恒例となっています。各クラス一学期中間考査が終了してから、本格的にパフォーマンスの練習に取りかかりました。今年度は昨年度までより一週間近く練習期間も短く、県総体も間に挟むことから、なかなか準備が思うよう

に進まず、どれほどの完成度に達するか担任団も不安を感じていました。しかし、どのクラスも素晴らしい出来で、採点をするのにも非常に迷うほどでした。各クラスがパフォーマンスを成功させるために、朝や放課後に集まって練習をする姿や仲間と大きな声で笑い合う姿、普段はあまり話をしていないクラスメイト同士でも振り付けを教え合う姿が校内のあちこちで見られ、校内は活気に満ちていました。クラス内で意見の食い違いがあったり、うまくできないこともあったりしたようですが、自分たちで声をかけ合い、本番ではどのクラスも趣向を凝らした素晴らしいパフォーマンスになっていたと思います。

これから三月末までの約九か月間は、自分の目標に向かってまっしぐらに進んでいく期間となります。その途中ではたくさんの紆余曲折が待ち構えています。目標の進路先に本当に合格できるのだろうか、今の学習を続けていって本当に力がついていくのだろうか、など様々な不安や葛藤に襲われると思います。ですが、こういった問いか

けを自分自身で繰り返し一つずつ乗り越えることで、生徒の皆さんは、学力はもちろんのこと人間的に大きく成長していきま

す。自分一人の力ではどうにもならないとき、私たち担任団は全力でサポートし、悩みを共有していきたいと考えています。保護者の皆様とも密に連絡をとりあい、共に生徒の皆さんを支えていけたら、と考えています。また、何より支えになるのが、一緒に歩むクラスメイトや部活動の仲間です。今回のパフォー

マンスで培った確かな絆を心に刻み一步一步進んでいってほしいと考えています。

一学期を振り返って

一学年主任 中西 克之

一学年の様子を振り返ります。学年の雰囲気は、総じて明るく元気です。学校生活を満喫し、勉強と部活動に打ち込む生徒の姿がみられます。その中で、学

年の雰囲気をもよおすために、私が感じていることを綴りたいと思います。

【学習面】皆、前向きに勉強に取り組んでいます。一方で、これから受験勉強をするにあたって改善してほしいのは、学習方法です。生徒の多くは、与えられた宿題をこなす学習スタイルです。生徒の質問には、「この分野全部わかりません」とか「まとめてポイントを教えてください」という受け身の言葉が出てきます。もちろん、教員はしっかりと質問に答えていきます。しかし、受験勉強はもつと主体的な取り組み方が必要です。今後生徒には、自分の理解度を分析し、今すべきことを見つけられるように促していきたいと思います。

【生活面】昨年以上に学校行事に熱心に取り組む生徒の姿が見られました。京都への遠足では、仲間とともに充実した時間を過ごせました。体育祭では、個人競技も団体競技も全力で挑み応援できました。一方で、団結力には希薄さが感じられます。仲の良いグループ内では何事も一生懸命できる反面、グル

ープ間の協調や他者への気配りは十分でないようです。クラスや学年のまとまりが薄いと感じられるのはそのためだと思います。これは、一部の生徒や保護者の方も感じておられることです。今の生徒は、小中学生の時に、コロナ禍を体験して、皆で頑張るといふ経験が少なかつたのも一因でしょうか。学年団では、このことを念頭におき、意識して「気配り」や「まとまり」を言葉に出して、これからの行事に取り組んでいきたいと思います。

今後も、学年団一同、保護者の皆様と連携しながら生徒を見守っていききたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

学年方針について

一学年主任 岡 有恒

「自主自律」、松阪高校の校訓です。そして二〇二五年度入学生の方針も「自主自律」としました。高校生ともなれば「自主」、すなわち自分のアイデンティティを確立して自ら考え行動できる独立した人間になってほしい、そういう願いがこもっ

ています。でも、それは単に自分の思うままに身勝手に行動することを意味するのではない。必ず自分の中に「規範」意識を持ち、それを守る、ということがセツトになっています。その意味での「自律」であり、これら二つを併せた「自主自律」こそが大切だと考えています。

その「規範」の基準は、自分たちが生きる「社会」の中にある、と思います。それで学年方針の二つ目は「社会性獲得」としました。社会の中の集団生活に必要な事柄を確実に身に付ける、ということです。日々の掃除当番や学校行事の中で、その社会性が育まれていくと考え

ます。学級やクラブなど、様々な交流の中で培われる人間関係も「社会」の中の自分という存在を学ぶ場になると思います。四月一八日、この時期にはまだお互いによく知らないクラスメイトも多かったと思いますが、奈良への遠足を実施しました。グループでの自由行動を通して親睦を深めるとともに、集合時間の厳守や制服の着こなしなど、全体としてよくまとまった行事になったと思います。また、

六月六日は体育祭でした。体育祭はクラスTシャツやクラス旗の作成の中で、学級がより深く結びつく機会です。どのクラスも真剣に取り組む、当日の競技にも一生懸命臨むことができたと思います。結果、一年五組が全校総合で準優勝を勝ち取りました。今後も二学期の文化祭や秋の遠足など、授業だけではなく様々な場面で生徒諸君の成長の機会にしていこうと考えています。

三つ目の学年方針が「進路希望の実現」です。一人一人が様々な希望や夢を抱いて入学した松阪高校でいうから、それぞれの生徒が自分の目標に向かって志を高く持ち、意欲的に挑戦できるように、学年団では精一杯支えていきます。毎日の授業や学習課題の設定をはじめとして、各種テストへの取り組みや、土曜講座や補講など、「将来」につながる「現在」を充実したものとするために、関係職員一同様々な取り組みを進めて参ります。なにとぞ保護者の皆様にもご理解とご協力をお願いいたします。

令和七年度松阪高校の進学状況

進路指導主事 小林 泰

令和七（二〇二五）年度入試における本校卒業生の四年制大学の合格者数は、国公立大学二三八名（現役一三二名）（昨年一四六名、現役一三六名）、私立大学五五四名（現役五四〇名）（昨年五一五名、現役五二二名）でした。うち難関大は、東京大学一名、一橋大学一名、大阪大学三名、名古屋大学九名、北海道大学一名、神戸大学三名でした。地元の三重大学は六一名（現役六〇名）合格しました。また、三重県立看護大学は五名でした。国公立大学の合格者数は、昨年度より若干名減少したものの、現役で一三二名となるなどすばらしい結果を残すことができました。東京大学に二年ぶりに現役合格し、難関大合格者が一八名、医学部医学科に六名、薬学科に三名合格するなど、志望を高く持ち、初志貫徹する生徒たちが増加しました。地元三重大学への合格者数が六一名と、卒業生の

二〇％以上を占めるなど、現役生の頑張りと意志の強さを感じることが出来ます。また、看護系においては、三重大学医学部看護学科と三重県立看護大学に計一四名合格しました。将来教員や医師、薬剤師、看護師として地元で活躍してくれる人が増えていることは大変喜ばしいことです。大学入学共通テストの平均点は昨年より上がりましたが、ボーダー得点が上昇し志望校決定が難しい受験となりました。しかし、今年の卒業生も最後まで諦めずに努力を続けた生徒が多く、その成果が例年以上に現れた結果となったのではないかと思います。資料①

令和七年度共通テスト

共通テストの正式名称は「大学入学共通テスト」で、各大学が独立行政法人「大学入試センター」と共同で実施する試験です。毎年一月中旬下旬の土・日曜の二日間に全国で一斉に実施さ

れる、日本最大規模の試験です。国公立大学の一般選抜受験者は、原則共通テストを受験しなければなりません。また、多くの私立大学でも共通テストの成績を利用する「共通テスト利用方式」を設定しています。大学進学を考える受験生にとって、この共通テスト対策は必須といっても過言ではありません。

令和七（二〇二五）年度の大学入学共通テストは、一月八日・一九日の両日に実施されました。共通テストの志願者数は、四九五、一七一人と前年から三二五七人増加（前年比一〇一％）しました。七年ぶりに増加に転じたこととなります。現役生志願者が増加したことが要因です。一八歳人口増に加え、現役生志願率（今春高校卒業予定者における共通テスト志願者の割合）が四五・五％と過去最高となったことも現役生志願者の増加につながっています。一方、既卒生志願者は前年比九五％と今年も減少しました。既卒生は年々減少しており、共通テストの志願者における現役生割合は一〇年前の八一％から今春は八六％まで上昇しています。出題傾向をみると、新課程入

試初年度とはいえ「思考力、判断力、表現力を問う」といった基本的な考え方のつとり、「日常を意識した場面設定」「複数資料の提示」といった共通テスト特有の出題傾向は継続しています。

今回の共通テストから、新教科「情報」が追加されたほか、「国語」では近代以降の文章に実用的な文章が加わり、「数学Ⅱ・数学B・数学C」でも選択項目数が二つから三つに増加しました。

新登場の「情報Ⅰ」はおおむね試作問題と同様の出題傾向と難易度でした。初年度ということもあってか、知識を直接問う問題は少なく、設問文の説明や条件を読み取り、丁寧に考えることで正解できる問題が多かった印象です。

「国語」の新しい大問は試作問題の第B問に類似した問題で、国語では初めてグラフが問題され、文章読解力だけでなくグラフを読み取る力が必要となりました。

「英語（リーディング）」では、「試作問題」で出題されたようなレポートのアウトラインの作成や推敲する新形式の問題がみ

られました。英文を「書く」スキルをはかる狙いが感じられました。

このほか「地理歴史・公民」では、探究活動の場面が目立ちました。日常の事象を題材とした問題を例にとると、「数学Ⅰ・数学A」で噴水を放物線とみなし、高さを求める問題が出題されました。

科目別にみると、主要教科では「英語（リーディング）」「数学Ⅰ・数学A」「国語」で平均点がアップした一方、「英語（リスニング）」「数学Ⅱ・数学B・数学C」ではダウンしました。「数学Ⅱ・数学B・数学C」はやや難しい問題には丁寧な誘導がついており、全体として数学が得意な受験生には得点しやすい問題でしたが、得点率六〇％八割の層は大きく減少しました。「英語（リーディング）」では、全体で七〇〇語程度語数が減少し、取り組みやすかったことが影響しているとみています。

「国語」は近代以降の文章・古典ともに平均得点率が上昇しました。大問が一つ増えたものの、既存の問題では選択肢が四択の問題が増え、比較的解きやすかったことなどが要因とみて

資料① 卒業生の進路状況

科・性別 進路区分	普通科	理数科	総合計
国公立	73	48	121
私立	110	17	127
国公立短	2	0	2
私立短	0	0	0
大学校	0	1	1
専修	2	1	3
各種(予備校)	5	12	17
就職	0	0	0
無職者	0	0	0
海外留学	0	0	0
合計	192	79	271

令和7年度入試 国公立大学 合格者数

	現役	過年度生	計
東京	1		1
大阪	3		3
名古屋	8	1	9
北海道	1		1
一橋	1		1
神戸	2	1	3
難関大計	16	2	18
千葉	1		1
横浜国立	1		1
お茶の水	1		1
富山	3		3
信州	1		1
静岡岡	3		3
愛知教育	2		2
名古屋工業	3		3
三重	60	1	61
滋賀	2		2
大阪教育	1		1
和歌山		1	1
広島	1		1
島根	1	1	2
徳島	1		1
愛媛	1		1
高知	1		1
琉球	1	1	2
福島県立医科	1		1
高崎経済	2		2
富山県立	2		2
山梨県立	1		1
静岡文化芸術	1		1
公立諏訪東京理	1		1
名古屋市立	7		7
愛知県立	1		1
愛知県立芸術	1		1
三重県立看護	5		5
滋賀県立	3		3
福知山公立	1		1
大阪公立	4		4
奈良県立	1		1
公立鳥取環境	1		1
計	132	6	138

国公立大学志願者を中心とする六教科八科目(一〇〇〇点満点)の受験者平均点と得点率は、文系が六三・一点で得点

科目再編が行われた地理歴史・公民では、「歴史総合・世界史探究」が六七・一点とやや高くなっていますが、科目間の平均点差は小幅にとどまっています。導入初年度となった「情報Ⅰ」については、平均点が七〇点となり、受験生にとってはかなり取り組みやすい設問だったと思われます。

資料② 共通テスト6教科8科目平均点(1000点満点)

教科・科目	昨年	今年	差
英語			
リーディング	53.4	59.7	+6.3
リスニング	68.5	62.7	-5.8
数学①	52.8	55.3	+2.5
数学②	58.7	53.2	-5.5
国語	119.1	129.1	+10.0
理科			
物理基礎	29.9	25.9	-4.0
化学基礎	28.1	27.5	-0.6
生物基礎	32.1	31.7	-0.4
地学基礎	36.1	35.0	-1.1
物理	64.2	61.0	-3.2
化学	55.8	47.3	-8.5
生物	55.4	53.6	-1.8
地学	57.6	46.3	-11.3
地理総合、地理探究	-	58.3	-
歴史総合、日本史探究	-	58.0	-
歴史総合、世界史探究	-	67.1	-
公共、倫理	-	60.9	-
公共、政治・経済	-	63.4	-
情報Ⅰ	-	70.0	-
8科目文系型	-	631.1	-
8科目理系型	-	643.8	-

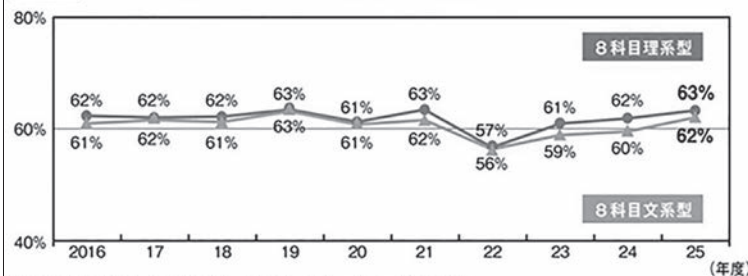
※8科目文系型：外・数(2科目)・国・理・地公(2科目)・情

※8科目理系型：外・数(2科目)・国・理(2科目)・地公・情

最近5か年の大学合格数 ()内は過年度生

区分	年度	R7年度入試	R6年度入試	R5年度入試	R4年度入試	R3年度入試
国公立	合格	138(6)	146(10)	176(6)	170(13)	155(11)
大学	入学	121(6)	133(7)	164(5)	155(11)	128(9)
私立	合格	554(14)	515(3)	710(12)	577(18)	707(26)
大学	入学	127(3)	126(2)	140(5)	135(0)	154(6)
短期	合格	3(0)	4(0)	6(0)	4(0)	13(1)
大学	入学	2(0)	2(0)	4(0)	3(0)	5(0)

図表4 センター試験・共通テスト 総合型平均得点率推移



※2025年度平均点(得点率)は、河合塾・駿台・ベネッセの推定値

8科目文系型：英・数(2)・国・理(1)・地公(2)・情(1000点満点)

8科目理系型：英・数(2)・国・理(2)・地公(1)・情(1000点満点)

※2024年度までは河合塾推定の7科目型の平均点(得点率)で、得点調整を実施した年は調整後の数値

います。

理科では、全科目で平均点がダウンしましたが、「基礎」を付した科目はわずかなダウンにとどまりました。一方の「基礎」を付さない科目の変動は大きく、特に受験者の多い「化学」で八・五点のダウンとなりました。

科目再編が行われた地理歴史・公民では、「歴史総合・世界史探究」が六七・一点とやや高くなっていますが、科目間の平均点差は小幅にとどまっています。導入初年度となった「情報Ⅰ」については、平均点が七〇点となり、受験生にとってはかなり取り組みやすい設問だったと思われます。

率六三・一(十二・三ポイント)、理系が六四三・八点で得点率八四・四(十一・二ポイント)と文理ともに上昇しました。文系の上がり幅が大きいのは、地理歴史・公民の平均点が高かったことや、前述した理科の「基礎」を付した科目の平均点ダウンが小さかったことなどが要因とみられます。資料②

自己採点集計における八科目型受験者の成績分布を見ると、昨年と比べて、文系・理系とも得点率八割以上の高得点層が大きく増加しました。六割以上八割未満の中間層も増加しており、全体に得点しやすかった様子がうかがえます。

本校は、三重大学を受験会場として、二七一名が受験しました。

た。松阪高校の平均は文系五八(昨年五四・九%)、理系六三(昨年六二・四%)という結果でした。

松阪高校の取り組み

文武両道の名のもとに、二年の夏期課外は午後実施

し、午前中に部活動を行うこととなりました。夏の猛暑対策として、今年度より変更しました。

部活動も課外も両方気兼ねなく活動が行え、課外受講率も増え、ほぼ全員が受講する科目も出てきています。来年度以降もこの方針で実施していく予定です。

「大学入学共通テスト」では、「学力の三要素」を多面的・総合的に評価するものへと転換することが必要と記されています。「学力の三要素」とは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性を持つて多様な人々と協働して学ぶ態度（主体性・多様性・協働性）」を指します。従来の入試は、三要素のうち「知識・技能」が重視されてきた側面があり、多面的・総合的な評価になっていないことが指摘されてきました。今後は、三要素をいずれかに偏らず評価すること、そのために多様な選抜方法を実施することが一層求められていくことになりそうです。

本校は、スーパーサイエンスハイスクールに指定されており、「探究」活動の中で、先に示した「学力の三要素」のうちの特に「思考力・判断力・表現

力」「主体性・多様性・協働性」を育む学習内容の研究・開発に積極的に取り組んでいます。

令和八年度入試

令和八（二〇二六）年度共通テストの出題方法や試験時間は、昨年から変更されています。国公立大学の入試要項は七月頃に発表になりますが、大学ホームページで常に最新の情報を確認してください。

今年度より大きく変更されるのが、出願方法です。従来は「受験案内」を学校で取り寄せ、綴じこんである志願票や振り込み用紙に記入し、学校から一括で大学入試センターへ送付していました。今年度から「受験案内」は冊子での配布がなくなり、すべて大学入試センターのホームページから各自でダウンロードすることになりました。志願票もホームページから各自がネットを通じて記入し出願する方法へと変わります。学校では、出願指導や出願漏れ、受験料の未納等のチェックは可能な限り行いますが、各自でしっかりと出願の手続きをする必要があります。進路指導部では、「進路の手引」を作成して、本校卒業生の

入試結果などの資料を提供しています。なお、進路に関する個人情報取り扱いには十分注意を払ってありますが、受験のために必要な進路情報を入手するために予備校などと連携を図っています。この点をふまえて模試や合否情報の提供にご理解をいただきますようお願いいたします。

さらに各学年の目標にのっとり、諸情報（大学・学部・学科案内、オープンキャンパス、難易ランキング、など）や、将来の職業選択のための案内を載せた冊子を全員に配布しています。ご家庭でも一緒にご覧いただけると幸いです。個別的な情報は、進路指導室の資料、インターネットのホームページ（各大学、大学入試センター、予備校など）で見てください。また、保護者の方も参加できる学校説明会やオープンキャンパス等が多くあります。ぜひ実際に足をお運びください。

今後とも、松阪高校の進路指導にご理解・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

生徒指導部より

生徒指導主事 竹内 伸

保護者の皆様におかれましては、日頃より本校における生徒指導に対し、ご理解、ご協力をいただきまことにありがとうございます。

本校では毎朝登校指導を行っています。校門付近は非常に交通量が多い上に、小中高の登校時間が重なるため、危険な場面が多々あります。しかし、ながらスマホ、イヤホンの装着、並列での自転車走行等の行為が見られ、交通安全に対する認識が欠けている気がします。現実には一歩間違えば、事故につながることも十分考えられます。今後交通安全指導について注意喚起をしていきたいと思います。ご家庭で、余裕を持って登校できるようにご協力をお願いします。また、朝の送迎に関しては、七時五〇分までは校内への乗り入れは可能です。それ以降は、本校周辺（約一km圏内）での乗降は控えてください。近隣や外部からの苦情があります。ご協力の

ほどよろしくお願いいたします。また、自転車のヘルメット着用が努力義務となり、本校でも少しではありますが、着用率が増えてきました。今後着用を積極的に勧めていきたいと思いますので、ご家庭でもご協力をよろしくお願いします。

本校では校内でのスマホ、携帯電話が一定の条件のもと使用可能となっています。正しい使い方をすれば大変便利ですが、使用方法を一歩間違えると本人のみならず他者に悪影響を与えてしまいます。トラブルで特に多いのが不適切なSNSの使い方です。他者の批判や悪口を書き込む、あるいは無断で他者の写真を掲載するなど、あまり深く考えずにSNSを使用してしまうと取り返しの付かないことが起こってしまいます。また、闇バイトへの勧誘も増えてきています。再度、ご家庭においてもスマホ等の使い方やSNSの怖さについて話す時間を持つていただきたいと思います。年度初めに、挨拶の大切さについてお話をさせていただきました。周囲の人に挨拶を発信するだけで、相手が気持ち良

くなり、良好な人間関係が築ける第一歩ですので、高校時代に身に付けてほしいと思っています。ご家庭においても、挨拶の大切さについて話す機会を持っていただければと思います。

夏休みに向けて

いよいよ夏休みが始まります。学期中とは異なり、自由に使える時間が大幅に増加します。時間をいかに有効に使うかは本人次第です。生徒の皆さんは本校の校訓である「自主自律」を体現できるように、是非とも有意義な時間を創り出し行動に移してください。自由な時間があるが故に不規則な生活になってしまったり、ルールを逸脱する行動をしたりしてしまつては、せっかくの夏休みが台無しです。二学期に元気な、そしてひとまわり大きく成長した皆さんに会えることを楽しみにしています。

保護者の皆様におかれましても、お子様の生活についてしっかり見守っていただくようよろしくお願いします。

SSH研究発表会

六月十二日、クラギ文化ホールにて、SSH研究発表会を開催しました。昨年度から一年を通して課題研究に取り組んだ三年生のうち、四月のポスター発表会にて選拔された八チームが、追実験やデータ分析を再度行い、新たな考察や結論を加えた発表を行いました。

最優秀賞

音楽と集中力

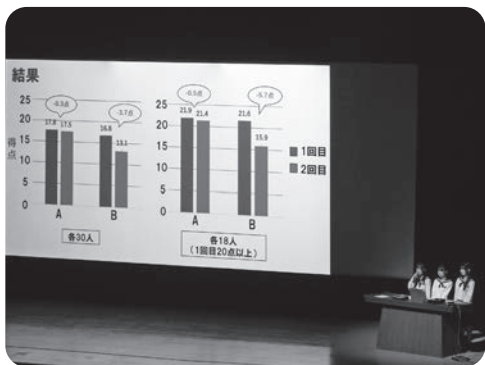
優秀賞

肌の弱い人も使える消毒液の実用化

小地名による災害予測はどの程度可能か

特別賞

小地名による災害予測はどの程度可能か



◎全国大会出場

第49回全国高等学校総合文化祭

文芸部 文芸部門

俳句の部 三年一組 小林 律保子

詩の部 三年八組 後藤 紗耶

放送部 放送部門

アナウンス小部門

小倉百人一首かるた 三年三組 川口 温花

団体戦 県代表 三将

第72回全国高等学校総合体育大会

陸上競技部 一年四組 中川 華恵

やり投げ 三年六組 向井 陽汰

100m 三年二組 芹田 悠花

◎東海大会出場

第72回東海高等学校総合体育大会

陸上競技部

やり投げ・砲丸投げ

100m・200m 三年六組 向井 陽汰

400m・400mH 三年二組 芹田 悠花

走高跳 三年三組 翹屋 更紗

ソフトテニス部 三年七組 扇谷 愛心

女子個人の部 (ダブルス)

三年八組 森 結菜

一年三組 長廻 怜

卓球部

男子学校対抗の部

水泳

100m平泳ぎ・200m平泳ぎ

一年五組 細呂木 里帆

100m自由形・50m自由形

一年七組 古川 歩希

第69回中日本総合大会

ソフトボール部

令和七年度PTA本部役員

会長	鈴木 寛子	副会長	森川 直昭	副会長	高橋 佐和子	書記	山下 幸彦	書記	福田 麻衣	書記	小坂 剛史	会計	村田 絹代	会計	白根 紗知子	会計	小塩 明俊	一学年部長	青木 智穂	二学年部長	土田 志穂	顧問(校長)	井ノ口 誠充	副会長(教頭)	北河 里香	副会長(教頭)	奥田 進也	書記(教員)	平松 尚	書記(教員)	山口 泰雅	書記(事務)	川田 千賀	会計(事務)	上田 真美	監査	村田 雅美	監査	前田 育子	監査	竹内 奈美
----	-------	-----	-------	-----	--------	----	-------	----	-------	----	-------	----	-------	----	--------	----	-------	-------	-------	-------	-------	--------	--------	---------	-------	---------	-------	--------	------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	----	-------	----	-------	----	-------

PTA会計監査

「体育祭を参観して」

当日は天候もよく、保護者の皆様も参観しやすかったのではと思います。

体育祭では、クラス対抗はもちろん、学年対抗、クラブ対抗、さらに綱引きでは三年生対教職員の対戦、そして三年生のパフォーマンス発表とバラエティーに富んでお



三年七組パフォーマンス「ダンス万博」



三年二組パフォーマンス「Tomo To Tomo ☆」

り、各種目とも、出場者全員が、真剣に、でも、笑顔で楽しく取り組んでみえました。参観された保護者の皆様にとっても、楽しく、思い出に残る体育祭ではなかったでしょうか。

生徒の皆さん、教職員の皆様、素晴らしい体育祭をありがとうございました。
PTA副会長 森川 直昭

体育祭結果

総合優勝

二年五組

総合準優勝

一年五組

パフォーマンス優勝

三年七組

クラス旗優勝

二年六組



二年六組 クラス旗



台風の目



しっぽとり



大縄跳び



一年生円陣（綱引き）